



学校だより

5月号

令和6年4月30日

豊かなかかわりと多様性

校長 山崎 真紀子

校庭の桜も若葉をつけ始め、西門から昇降口に向かう通路に牡丹桜の花びらが舞い、美しい桃色に染まっています。花壇には、色とりどりの花が咲き誇り、瑞々しい命が芽吹く季節が訪れました。

春の花壇を彩るパンジーには、ハニーガイドと呼ばれる独特の模様が花の中心についています。虫たちは、このガイドを目指して花に近づきます。しかし、蜜は花の奥にある「距」と呼ばれる筒に隠しており、奥に進まないと吸えない構造になっています。これは、パンジーに効率よく花粉を運んでくれる蜂だけが蜜を吸えるような構造なのだそうです。どんな虫でもよいわけではなく、最適なパートナーを選んで蜜を与えているというわけです。物言わず、動かない花々ですが、実に巧みに知恵を働かせて種を残していることに驚かされます。

一方、初夏にみられるスイートピーは、人間に保護されて育つ植物で、厳しい環境条件を乗り越える必要がありません。人間たちが期待する性質が変わることなく受け継いでいくほうが都合がよいため、ほかの花と交配せず、自分の花粉で自殖するのだそうです。パンジーと同じように旗弁と呼ばれるガイドを持ちながらも頑なに虫がやってくるのを拒んでいます。植物は、他の個体と交配することによって多様性を獲得し、あらゆる環境条件に適応しようと知恵を絞っていますが、それを拒む種もあるということに改めて考えさせられます。

子どもたちの進む未来は、予測が難しいと言われています。気象変化や他国との関係、未知のウイルスや病原体といった困難だけでなく、もちろん、テクノロジーの進化や宇宙への期待など、これまでとは違った環境になっていくことと思われれます。そうした厳しさの中で必要なことは何でしょうか。いろいろな立場の人と関わり、さまざまな考えに触れることが多様性の獲得につながるのではないのでしょうか。

先日は、1年生を迎える会があり、「ようこそ二つ橋小へ」の合言葉を皮切りに、各学年が様々な趣向を凝らして1年生を迎えました。子どもたちの感じる二つ橋小のよさや楽しさを伝え、1年生もとても喜んでいました。学校には、校内に限らず、様々な体験機会と出会いがあります。こうした行事だけでなく、学校生活において子どもたちに豊かな実りがあるよう、私たち教職員も知恵を絞り、豊かなかかわりと多様な学びを子どもたちとともに創っていきたいと考えています。期待に応えられるよう教職員一同励んで参ります。

今後も変わらぬご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

